

令和元年9月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

北村 貴寿 議員

◇読書の推進について

(1) 子ども読書活動の実態と県の取組について伺いたい。

(教育長答弁)

平成30年度の調査におきましては、1か月に1冊も本を読まない児童・生徒の割合は、本県の小・中学生が0.1パーセント、高校生が11.9パーセントでありました。全国の小学生8.1パーセント、中学生15.3パーセント、高校生55.8パーセントと比較して非常に低い状態ではありますが、本県においても、学校段階が上がるにつれ本を読まなくなるという傾向にあります。

また、学校司書は、今年度21市町に231人、422校に配置されており、配置率は兼務を含め85.3パーセントと少しずつ増加をしております。

このような状況を踏まえ、県では、「第四次長崎県子ども読書活動推進計画」に基づき、発達段階に応じた取組、読書関係者の資質向上と連携を重点課題とし、今年度から様々な事業を行っております。具体的には、読書への関心を高める取組として、中学生のビブリオバトル県大会のミライ on 図書館での開催や、「長崎県の子どもにすすめる本500選」の改訂を行うとともに、読書関係者の資質向上の取組として、家庭への働きかけの主体となっただけ図書館ボランティアや学校での読書環境の充実に取り組む学校司書等への研修会を、充実をさせます。

(2) ミライ on 図書館の開館イベントおよび地域との連携について伺いたい。

(教育長答弁)

ミライ on 図書館では、年間を通して子どもから高齢者の方まで幅広い世代の県民の皆様にご来館いただけるよう、様々なイベントを企画しております。特に、開館に際しては、10月から月1回のシリーズで、教育評論家や大学教授、長崎県ゆかりの作家などによる講演や対談、子ども向けの講話を交えたコンサートなどを企画しております。また、12月には、子ども読書活動推進の一環として、中学生ビブリオバトル県大会を開催します。

地域との連携については、県民とともに創る図書館を目指して、読み聞かせや視覚障害者への対面朗読、ミニコンサート等に協力していただくためのボランティアを募集し、研修会をすでに実施したところです。

さらに、県民の課題解決支援のための講座や相談会等を、長崎医療センターや地域包括支援センターなどの関係機関・団体等と連携しながら実施するとともに、商店街とも様々な形で連携・協力ができないか検討していきたいと考えております。

今後とも、地域との連携を深め、生涯学習の拠点として、地域コミュニティの活性化に

も寄与していくよう努めてまいりたいと思います。

(3) 図書館ネットワークの構築について伺いたい。

(教育長答弁)

本県では、地元の図書館を通して県立図書館の本を貸出・返却できる協力貸出を行っておりますが、個人がミライ on 図書館で借りた本を最寄りの市町立図書館等の窓口で返却できるシステムについては、遠隔地の利用者の利便性向上につながると考えております。しかしながら、このシステムの導入にあたっては、市町立図書館の理解と協力が必要であることから、その課題を整理しながら、今後、検討を進めてまいりたいと考えているところです。